

〔雜 報〕

日本女子醫學研究會第五回總會

會場 東京女子醫大臨床講堂

日時 昭和 24 年 10 月 22 日(土)自 12 時半至 17 時
23 日(日)自 8 時半至 13 時

演題規定 演説一題十分 討論二分

演題

第一日 10 月 22 日(12 時半—17 時)

開會之辭 幹事

庶務會計報告 幹事

1. 肝膿瘍の剖検例 今井 三喜(東京女醫病理)
2. 網膜機能研究法としての微小電極法
(演)富田 恒男(同 生理)
船石 彩
3. 二、三の薬物の網膜内活動電壓に及ぼす影響
富田 恒男(同)
船石 彩(同)
4. 擴散因子に関する研究 太田八重子(同 外科)
5. 眼瞼整形手術二、三 加藤 金吉(同 眼科)
6. 腦囊虫症の一例 川田 仁子(同神經科)
7. 「所謂そばかす」の處置に就て
中村敏郎(東京女醫皮膚科)
8. 種々要約下に於ける網状赤血球の消長
平瀬 文子(慶大法醫)
9. 中耳炎の動脈性衝擊注射療法
池 香 子(東京女醫耳鼻科)
10. 右側廻歸神經麻痺を伴つた原發性氣管癌(?)症例
(演)窪 敦 子(同)
相原 靜江(同)
11. 兄弟に簇發せる筋萎縮症の遺傳關係に就て
谷 八重子(同小兒科)
12. 當教室に於ける結核性腦膜炎の統計的觀察
江田 令子(同)
13. 小兒喘息の研究(自律神經系興奮と白血球の變動
に就て) 中井田玲子(同及薬理)

特別講演

破傷風菌の抗元に就て 中西 清子

第二日 10 月 23 日(8 時半—13 時)

14. 尿中無機磷酸の排泄に就て
内藤たみ(東京女醫岩崎内科)
15. 滲出液の蛋白分割に関する臨床化學的研究
笹井 順子(同)

16. 主要急性傳染病の流行季と非流行季の相調に就て
(第二報死亡數) 松田慶耶子(同 衛生)
17. 本邦都鄙保健狀態の分析(第一報出生)
諸岡妙子(同)
18. 性周期と自律神經の反應 小山真修(同 薬理)
(演)岩瀬恭子(同)
19. 雄性蝦蟇及び雌性蛙による新妊娠診斷法
菊地和子(慶大婦人科)
20. 當教室に於けるアブレル氏妊娠中絶法に就て
羽鳥志保子(東京女醫婦人科)
(演)高野敬子(同)
21. 本邦肺結核死亡率に關する一考察(第十一回報告)
—昭和 22 年度體性年齢別特別死亡率及び訂正
死亡率に就て— 諸岡妙子(同 衛生)
22. 「ツ」反應陽轉者の繼續檢診(第三報)
島津フミヨ(同放射線科)
23. ストレプトマイシンの臨床
田守まき(同岩崎内科)
24. 肺結核外科手術に於ける氣管枝の態度
角田 正彦(同 外科)
25. 至誠會第二病院に於ける肺結核患者に對する手術
症例に就て 森 鈴 子(至誠會第二)
26. 結核症に於けるストレプトマイシンの臨床例
小山千代(東京女醫三病内科)

特別講演

肺結核の横隔膜神經捻轉術と斜角筋切斷術の併
用に就て 和久 金藏

閉會之辭 副會長

第 40 回例会

日時 昭和 24 年 12 月 3 日 午後 2 時

場所 東京女子醫大病院 會議室

演題

1. ペニシリン副作用の三例 大野 靜子
2. 卵管間質部妊娠の一例 秋山 牧子
3. 片側別出の他側腎皮質に及ぼす影響に就て
圓 乘 幸
4. (綜説)脂質の中間代謝に就て 松村 義寛

評 議 員 會

時 日 昭和 24 年 12 月 1 日 午後 2 時

場 所 東京女子醫大病院 會議室

出席者 久慈直太郎 吉岡正明 吉岡博人 石原亮
磯田仙三郎 今井三喜 圓乘幸 大石和子
大田隆子 久保田くら 小林龍野 小山千代
佐藤イクヨ 中西清子 船石彩 諸岡妙子
柚木祥三郎 和久金藏

- 議題 1. 例會綜説演説 12 月 松村義寛 1 月
加藤金吉 3 月 村瀬正雄 4 月 榑原仔
5 月 柚木祥三郎 6 月 森崎直木
2. 次回總會特別講演者 久保田くら 中村敏
郎
3. 會費増額の件 來年度 400 圓に決定

寄 稿 細 則

- 1) 寄稿は會員に限り之を受ける。
- 2) 原稿用紙は 400 字詰のものを用ひること。
- 3) 寄稿注意は次の如くである。
- A) 冒頭は次の順序に願ひたい。
標題, 所屬, 主任或は指導者, 著者名, 本文。
尙著者名には振假名をつけて頂きたい。
- B) 本文は平假名を用ひ, わかりやすい日本語で綴
られたい。文章には句讀をよく氣をつけて打つて
點も丸も一畫にはめること。
- C) メートル法度量衡の單位の書き方は, 次の形式
に従はれたい。これらの符號のあきには點をつけ
ない。
- 1 匙……1cc 1 瓦……1g 1 瓶……1kg
1 匙……1mg 1 米……1m 1 糎……cm
1 糎……1mm 1 ミクロン……1 μ
1 ミリミクロン……1m μ
攝氏 37 度 2 分……37.2°C
華氏 60 度……60°F
- D) 外國人名, 地名はなるべく歐文のまま記載せら
れたい。然し地名その他のうち既に我が國でも通
俗化してゐるようなものは, 片假名で書くこと。
- E) 引用文献には, 著者名(標題名), 雜誌名, 卷,
號, 頁, 發行年月をこの順序に記載せられたい。
文献は, 本文の末尾にまごめること。
- F) 本文中に挿入する表や圖版は原稿中の適當の部
分に貼りつけて貰ひたい。費用がかさむから, 必
要な最小限度にせられたい。
- G) 本文及び文献の數字は出来る限り明瞭にし, 文
献については成るべくタイプライターにて記する
こと。
- H) 薬名其他は片假名とし「」或は傍線を附さな
いこと。

- 4) 論文寄稿者は寄稿の際必ず別刷所要部數を原稿第
一頁の餘白に朱書せられたい。
別刷は實費を申受ける。所要部數を記入しない時
は, 別刷を調製しない。
- 5) 原著にあつては一稿 5 頁, 又臨床實驗にあつては
一稿 3 頁を超過せる際は實費を申受ける。色彩圖
その他多額の費用を要する際は別に之を申し受け
る。
- 6) 掲載は受附順による。但し急を要するものは掲載
料全額を申受ける。
- 7) 寄稿の宛名は左の如く認められたい。

東京都新宿區河田町 10

東京女子醫學專門學校病理學教室

日本女子醫學研究會幹事 佐藤やい宛

昭和 25 年 2 月 20 日印刷

昭和 25 年 2 月 25 日發行

東京都新宿區河田町 10 番地

東京女子醫科大學圖書館内

發行所 日本女子醫學研究會

電話九段(33)2196番

東京都世田谷區羽根木町 1632 番地

編集兼
發行者 吉岡博人

電話松澤(117)2391番

東京都中央區木挽町 2ノ1

印刷者 片岡義朗

東京都中央區木挽町 2ノ1

印刷所 共立印刷株式會社

電話京橋(56)5881番

女子醫學研究規定

○會費拂込へ振替口座「東京4342」東京女子醫學
專門學校内 日本女子醫學研究會宛ノコト

○會費ハ毎年一月中ニ拂込マルコト

會費	會員	賣價
(前金)	1ヶ年金 400 圓	1部金 200 圓

東京都世田谷區玉川與澤町 3 丁目 6 番地

廣告取扱者 大矢雅美

電話田園護布 3374 番